

# 釣れ釣れなるままに

2013年思い出の釣行記 PART. 5

# 釣りの思い出 鹿島釣狂

## 岩見沢釣遊会第1回大会

☆開催日	平成25年4月21日
☆開催場所	須築港～瀬棚港
☆入釣場所	藻岩トンネル裏
☆潮（瀬棚）	干潮 05:34 -1cm
☆天候	曇り 波2m
☆釣果	アブラコ 370mm 3/3 ホッケ 362mm 2/5 ソイ 280mm 1 重量 2430g
☆成績	合計点数 975点 成績 7位

### 板挟み

アベノミクスの三本の矢のうちの第1の矢である金融政策の効果が出始めて、円安傾向が続き景気が上向きになってきた。しかし、反対に円安が響いてかガソリンが高騰し、釣りバス代の値上げを打診された。私は会員減で悩んでいる会の状況を説明して、何とか現状維持でお願いした。

札幌竿道会では今まで利用していた栗山のバス会社が倒産したため、美唄のフラワー観光のバスを運行してもらうことになったという。何でも美唄から岩見沢を経由して札幌に

向かうということなので、岩見沢の会員は途中で乗車できるようになり、わざわざ札幌に向けて自家用車を運転していく必要もなくなった。そのようなことで気軽に乗ってくれというお誘いを受けた。是非同行したいものだ。

同じ岩見沢で組織された「とんとん会」でも会員の減少に悩まされ、大型バスから中型バスへの転換を余儀なくされているようだ。バス会社も二人の運転手をつけることを義務づけられており、会員減という釣りの現状とバス会社の経営の板ばさみになっているのが実情だ。

私は会員減を少しでも打開しようと岩見沢市にある釣具店に会員募集のポスターを掲示してもらった。どれだけの効果があるのか分からないが、手をこまねいているだけでは埒が明かないので、何にでも頼りたいのだ。

### ゴロバリへの思い

平成25年度岩見沢釣遊会第1回大会が4月21日（日）に須築港～瀬棚港で開催された。指定した駐車場には残雪がうず高く積もっており、今年の豪雪と春の訪れの遅れを物語っていた。出発時も暗雲が低く垂れこめて雪がはらはらと舞い散り、今回の初釣りの天気が心配されたが、瀬棚地方の天気予報では晴れで波も2mから徐々に治まってくると伝えていた。これまでの他会の大会を見るとなかなか厳しい状況が続いていた。名人級の会員が集まる釣り会でも規定の魚をそろえることが出来ない会員が何名も出たというのだ。「つりしん」では、ようやくこの限界でもホッケが寄り出したという記事が載った。特に須築漁港、瀬棚港、シマロツペが上向きなようだ。

第1回ということで、差し入れられた七福神のお酒をいただきながら、納竿期の鬱憤を晴らすのごとく熱のこもった釣り談義に花が咲いた。酔いが回ってきた会員は、バスの中に持ち込んだリュックの中から普段は門外不出の自作仕掛けを取りだして皆さんに開陳した。自分のこだわりを生かした凝ったものもあり、その評価にも賛否両論ありで仕掛けに対する思いの違いが明らかになった。私も「つりしん」に掲載された塩田敏行氏「らせんカゴ付きちょい投げ遠投用仕掛け」、正岡哲哉氏「コマセネット付き根魚用仕掛け」、大杉和洋氏「コマセネット付き両天秤仕掛け」、藤本一馬氏「コマセネット付き仕掛け」を作って持って行っていたので、その評価をいただいたが、仕上げが雑な上にかなり省略しているのを指摘された。特にゴロバリには皆さん特別な思いがあるようで、ハリの大きさや形、ハリとハリの間隔、ハリスの長さや孫バリの必要性などが十人十色でその奥深さを痛感させられたのだ。

### 安全を期す

須築新港で着替えを済ませて、私は1番で藻岩に下りた。バスの中でリュックを担いで準備し、そのままの勢いで一気に藻岩の先端に向かったのだ。しかし、少し酔いが回っていたためだろうか、足元がふらつくので慎重に歩みを進めた。途中、同じような釣り人が

おり、前の平盤に乗りたいのだが波が上がってきているので、違う盤に向かうということだった。私は、一度も荷物を下ろすこともなく先端に陣取ることが出来た。少し波が高かったので荷物を後方の小高い所に置いて、先端から下がって三脚を設置した。更に後ろのほうの小高いところで竿を準備していると、ウネりを伴った波が岩壁に当たり水飛沫を上げて降り注いできた。海水を汲んで三脚に吊るしたビニルバケツにその波が当たり三脚が倒れて脇にある円釜に落ちてしまった。三脚はすぐに回収できたが、空になったビニルバケツは風で遠くに飛ばされてしまった。竿を設置する前でよかった。この場は時折打ち寄せるウネりで波が上がってくるので危険と判断し、横についた更に高く切り立った岩の上に三脚を立てることになった。



切り立った岩の上に竿を設置

釣り人がヘッドランプを照らしながらやってきた。昨年、一緒に並んで釣りをした鶴巻氏だった。見覚えがあったので声を掛けると、鶴巻氏も私のことを覚えていたらしく「岩見沢の鹿島さんですね」と返してくれた。

鶴巻氏は昨年のこの時期に、竜巻による突風を受けてスピンパワー3台とステンレスの三脚を海中に落としてしまっていて、その後の釣りを断念しなくてはならなかったのだ。スピンパワーはその時に助けあげることができたのだが、三脚の方は友達のダイバーに拾ってもらったそうだ。海の深さは7mほどあったという。鶴巻氏はその後の「北海道の釣り」の巻頭を飾る写真に掲載されているのをみると、相当な釣り師らしい。昨年は今氏と一緒に

だったが、今日は違う仲間と釣りに来たということだった。鶴巻氏は、波が上がっている現場を見て、3人で釣りをするには無理と判断して違う場所に向かった。

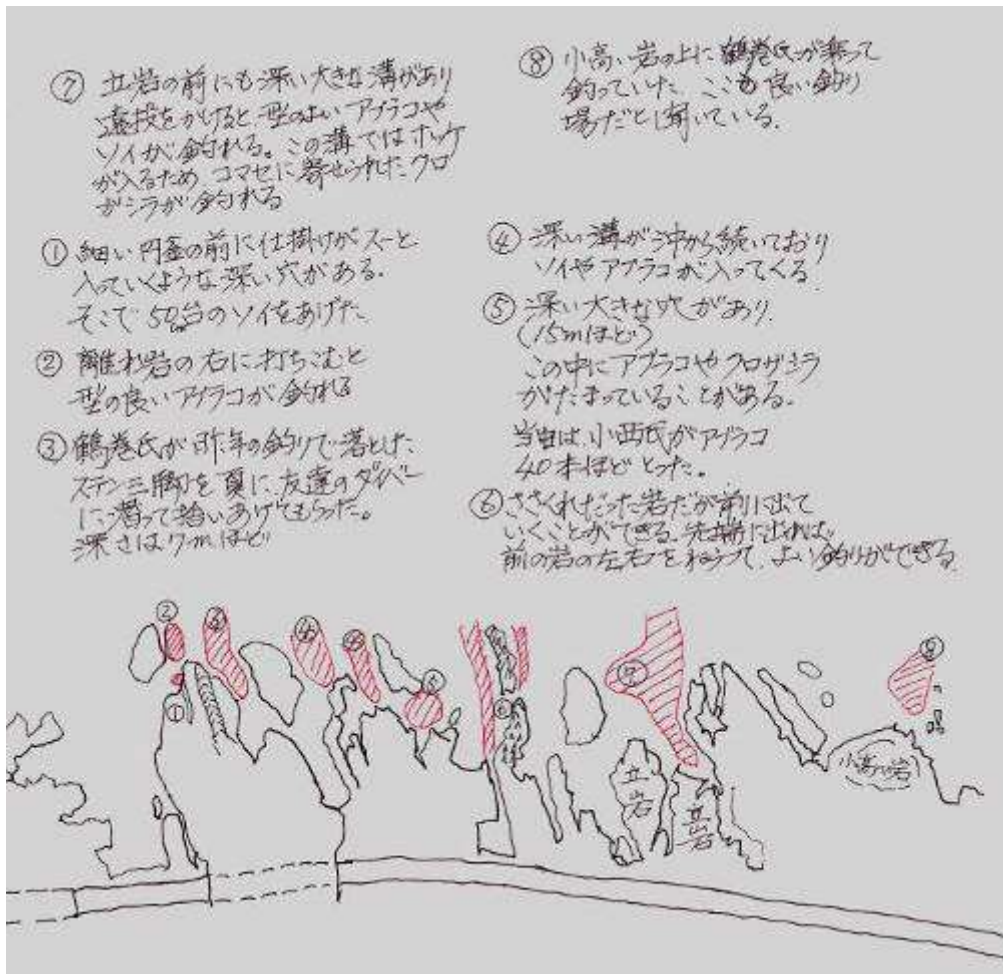
三脚を立てたのは切り立った岩の上なので、その岩の上に身をおくことは出来ず、投竿のたびにいちいち崖を上っては、下りるということを繰り返すことになった。上るのはよいのだが下りるのを慎重にしなければならなかった。

2時頃、竿を突っ込むよいアタリが出て、竿を煽ると大きいものではないが魚が掛かった。竿を設置した高岩の下に岩棚が広がっているのだが、そこには時折ウネリが乗ってきていたので下りてリールを巻くには危険を伴う。高岩から魚を引き上げようとするとその岩棚に魚が引っかかってしまった。ウネリを気にしながらその低い岩棚に乗り、竿を煽ると35cmほどのアブラコが顔を出した。そして、次のウネリが来る前にと慌てて高岩に上った。同じようにしてアブラコを2本追加した。

### 耳寄りな情報

3時、2本バリで遠投していた竿にガクガクと小気味よいアタリが出て、30cm程のソイが釣れた。これで2魚種4匹目だが、何とかあと1本を長さのあるホッケでと思うがままならない。明るくなってからは、アタリも出なくなった。沖に向かって遠投を繰り返す。時たま小さなアタリが出るのだがなかなか魚が乗らない。このままではコマセもイカゴロも余してしまいそうだ。今度はコマセをたっぷり入れたネットゴロ天秤仕掛けを次々と近投する。ホッケが寄り出したのかようやく待望の35cmほどのホッケが上がった。その後ホッケを4本追加した。

朝方には治まると思っていた波が、いつまでたっても治まらない。高岩への上り下りで疲れてしまった。今日はもうこんなもんだろう。締め切り時間には少々早い竿を片付けて付近を見て回ることにした。釣り場に入るときに出合った釣り人が道路に上がっていた。親鱗会の小西氏だった。彼からは「今日は十八番の岩には乗れなかったが、隣の平盤で40cmのアブラコを頭に40本程釣った。ホッケは食いが渋くて小物しか釣れなかった。あなたが釣っていた場所には溝なりに探ると深くなった穴がある。そこでクロゾイの50cmを釣り上げたことがある。クロガシラもよくその穴に入っている。私が乗っていた平盤は左正面の近投で15m程の深さがある。隣の低い平盤前に続いているのだが、そこがもっともよいポイントになっている。砂が乗っているところもあり、カレイがよく釣れる。」と、この界隈の釣り場を詳しく教えていただいた。



小西氏から教わった釣り場をメモに残す

藻岩の高岩横の大きな溝ではホッケを狙った釣り人が10名ほど入っておりポツラ、ポツラと釣り上げているのが見えた。その先の小高い岩には鶴巻氏とその仲間が熱心に打っていた。釣果はあったのだろうか。近くまで行って様子を伺おうと思ったがその気力はなかった。コンクリートを流したような駐車場には栄磯平盤からやってきた釣り人がいたが、どの出岬も釣り人が満杯状態でホッケがよく釣れていたと話してくれた。そして、その方はルアー竿を抱えてサクラマスを狙って出撃していった。

## 審査結果

## 審査結果

優勝	嵐 光博	1 2 2 8 点 (アカハラ484mm+ホッケ 344mm+4000g)	最 内
準優勝	吉井 博	1 1 2 9 点 (アブラコ408mm+カジカ 375mm+3460g)	オホンドマリ
3 位	岡 英成	1 0 7 9 点 (アブラコ408mm+カジカ 378mm+2930g)	島 歌
4 位	佐々木清	1 0 5 0 点 (アブラコ415mm+ホッケ 396mm+2390g)	横 滝
5 位	堀内正博	9 9 8 点 (アカハラ388mm+アブラコ340mm+1570g)	瀬 棚 港
身長優勝	前野達志	アカハラ42.0cm	最 内



左から3位：岡 英成、優勝：嵐 光博、身長：前野達志、準優勝：吉井 博

優勝者の嵐氏は、最内で暗いうちに48.4cmをはじめとする大物アカハラを数揃え、明るくなってから同じ場所でホッケを釣って嫁にした。そこで、クロガシラも出たそうで港に移動することもなく最内のみで魚を揃えてきたのだ。身長優勝の前野氏も同じように最内で大物アカハラとカジカを揃えてきた。準優勝の吉井氏は、梅花都にするかどうか悩んだ末に結局、得意とするオホンドマリに入ってアブラコ、カジカの大物を揃えてきた。3位は岡氏である。岡氏は島歌川河口に入り、近投でカジカ、遠投でアブラコを釣り上げた。狙いとしていた河口寄りのゴロタ場にいた釣り人（親鱗会）は、高波で1投1投根掛かりしてしまうので早々に立ち去ったが、その脇にある舟揚場で粘ったのだった。同じ場所に入った西川氏だったが、彼が打ったところは根掛かりばかりで、バスの中で開陳した手の込んだ仕掛けを簡単に取りられて魚も全く居なかったようだ。あくまでも場所の差の結果であり、腕の差とは言わないでおこう。4位の佐々木氏は横滝から藻岩に移動して粘りの釣りをし、大物アブラコに美味そうな黄色みを帯びた根ボッケをそろえた。5位は堀内氏で、彼も得意とする瀬棚港でアカハラ、アブラコ、クロガシラの大物をそろえた。ちな

みに私はアブラコ37.0cm、ホッケ36.2cm、重量2430gの975点で最下位から数えて2番目の成績だった。

出発前は、他の釣り会でもあまりよい情報が聞かれなくて苦戦を覚悟していたが、なかなかよい釣果に恵まれた大会だったと思う。次回は交綸会との合同大会である。ロケットスタートした会員はもちろん、下位に甘んじた会員も、更により釣りが出来るように願っている。